

## 英文和訳における人称代名詞と取り立て助詞の「ハ」

馬 場 良 二

### 0. はじめに

本研究は、平成16、17年度学長特別交付金事業「熊本県立大学における学生の言語能力調査と研究—日本語と英語について—」馬場良二、吉井誠、村尾治彦、の成果の一部である。

平成16年度には、本学文学部日本語日本文学科、英語英米文学科の新生を対象に調査し、17年度は2年生を対象に調査した。つまり、2年間にわたって継続調査をしたことになる。新生を対象にした調査結果の一部の分析は馬場良二「英文和訳の日本語力—熊本県立大学の学生の場合」、『熊本県立大学文学部紀要』第12巻、2006年2月、にまとめた。ここでは、平成16年度の調査と馬場2006をふまえた上で、平成17年度の調査結果を紹介し分析する。

### 1. 目的

英語の文章を日本語に訳する際には、どうしても英語の語順や構造の影響を受けてしまう。被験者である本学学生がその影響を受けながら、どのように訳すか、とくに、人称代名詞をそのまま訳してしまうか否か、および、適切な言語要素に「ハ」を後置して題目語化できるか、この2点に注目して調査した。

### 2. 調査項目

言語には経済性の法則があり、自明のことは繰り返さない。それで、英語では、人称代名詞が使われる。固有名詞や登場人物を示す普通名詞を繰り返さないためだ。日本語では、人称代名詞は使わず、その登場人物を言語化しない。

英語では、述部に対応する動作主は言語化しなくてはならない。そのため、主語の位置に人称代名詞が繰り返し現れる。日本語では、自明の登場人物は言語化しないから述部に対応する動作主は現れない。では、文頭の位置には何が置かれるかという、と、題目、あるいは、題目語である。

課題文 MIKIKO には she、her、課題文 TOSHIO には he、his が含まれて

いる。これらの人称代名詞をどの程度日本語に訳出するかを見た。

「ハ」は、文の構成要素を題目語として取り立て、文と文との関係、文章全体の流れを明示する働きをする。英語にも言語要素を題目語化する手段があるが、どのような場合に題目語化するか、また、どの要素を題目語化するか、といった、題目語化の論理には大きな違いがある。だから、英語の文章を和訳する時には、文と文との関係、文章全体の流れを解釈し、適切に「ハ」を挿入しなくてはならない。日本語母語話者であれば簡単なはずのことなのだが、英文和訳の場合には英語の文の構造や語順にしばられ、なかなか自然な日本語にならない。She、he の人称代名詞を「彼女」、「彼」に訳出することは、「ハ」を後置して題目語とする、ということである。そうすると、本来題目語となるべき言語要素が「文と文との関係、文章全体の流れを明示する」ように「ハ」を取ることができなくなる。

今回の調査では、主語、目的語、時の副詞、場所のへ格、場所、および、時のニ格として機能している要素を題目語化した文章を作成し、それを英文に訳し、その英文を課題文として日本語に訳させた。

### 3. 調査票

副助詞「ハ」を多く盛り込んだ日本語文を作成し、それを英訳したものを課題文とした。日本語文の作成は馬場、英語への翻訳は共同研究者である本学文学部の吉井誠、村尾治彦が担当した。その日本語文と課題文とを下に掲げる。

#### 3-1 MIKIKO

##### MIKIKO—日本語文

ミキコは一人暮らしだが、家事が苦手だ。食事はコンビニで弁当を買ってくる。掃除はしない。けさ母から、あした行く、という電話があった。きょうは部屋をきれいにしなくてはいけない。大好きなゲーセンは行く時間がない。ゲーセンは夢がある。

この文章の各文で「ハ」が後置している各要素と述部との格関係、および、その品詞は、以下のようなになる。

ガ格\_\_\_\_\_。 ヲ格\_\_\_\_\_。 ヲ格\_\_\_\_\_。 「ハ」なしの一文。  
 時の副詞\_\_\_\_\_。 へ格（場所、方向）\_\_\_\_\_。 ニ格（場所、存

在) \_\_\_\_\_。

### MIKIKO－課題文

Mikiko lives alone and is not good at doing housework. She buys her meals at a convenience store. She doesn't clean the house. This morning, she got a call from her mother who said, "I'll come and see you tomorrow."

Mikiko has to clean her room today. She won't have time to visit an \*arcade, which is a kind of dream world for her.

\*arcade = ゲーセン

日本語文は7文で、これを翻訳した課題文は6文。日本語文の最後の2文が、課題文では1文になっている。

日本語文の第1文「ミキコは一人暮らしだが、家事が苦手だ」の「が」は逆接の接続助詞であるが、「一人暮らしなのに、家事が苦手だ」ほどにその意味は強くない。電話での「馬場ですが、田中さんはいらっしゃいますか?」にみられるような「前置き」の用法に近い。逆接を示す英語の but では、意味が強すぎるのであろうか、課題文では and になっている。

「食事は弁当」が英語文では meals だけに、「買ってくる」は buys だけになっている。また、日本語文では、「あした行く」だけなのが、英語文では "I'll come and see you tomorrow." に、「あした行く」が "I'll come" に、なっている。

もとの日本語文「ゲーセンは夢がある」の直訳は The arcade has a dream. であろうか。だが、課題文の英文はそうっていない。この英文から「ゲーセンは夢がある」の日本語文には訳し戻せないだろう。

課題文のもとになった日本語文にはミキコが1回あるだけだが、課題文にはすべての文に動作主があり、Mikiko が2回と she が4回現れている。日本語では、ことがらの記述に現れたその場の登場人物は一度言語化されたら、意味不明とならない限り、基本的に繰り返して言語化されることはない。一方、英語では各文が必ずその文の動作主を要求するからである。

MIKIKO で言うと、家事が苦手だということを受けて、家事の具体例である料理、つまり、「食事」が取り立てられ、題目語となる。第3文も同様に、「掃除」が題目語となる。第4文は、母からの電話であり、文章の流れがいったん途切れ、題目語は取り立てられない。次の第5文では、日頃掃除をしないという文章の流れを受けて、「今日」が取り立てられる。「掃除」をするか

ら、「時間」がないということで、「ゲーセンに行く時間はない」となり、非制限的用法の関係節 “an arcade, which is a kind of dream world for her” は、「ゲーセン、そこは彼女にとって一種の夢の世界である」となる。

すべての言語で、文と文との連関、文章の流れは何らかの言語的手段によって示される。日本語では、取立ての助詞「ハ」の働きが大きい。連関や流れは英語でももちろん示されるが、主に prominence などの音声的な手段によるのである。その prominence は、特定の語をゆっくり言ったり、強く、あるいは、高く発音したりすることによって表現される。構文論的なものとしては、This book, I really like., Most of these problems a computer could solve easily.などの倒置、It is the wife that decides., It was here that he died.などの cleft sentence (分裂文) などがある。

### 3-2 TOSHIO

#### TOSHIO-日本語文

トシオは今日から新聞を読まないことにした。毎日のできごとはテレビを見ればいい。疲れ切ったからだを少しでも休ませたい。きょうはコンビニのバイトもやすみだし、一日のんびりしようと思った。でも、コインランドリーは行かなくてはならない。土曜日はやっているだろうか。

ガ格 \_\_\_\_\_。 ヲ格 \_\_\_\_\_。 「ハ」なしの一文。 時の副詞、  
\_\_\_\_\_。 ヘ格 (場所、方向) \_\_\_\_\_。 ニ格 (時) \_\_\_\_\_。

#### TOSHIO-課題文

Toshio decided not to read a newspaper from today. He can watch current events on TV. He wants to get as much rest as possible for his \*exhausted body. He doesn't have to go to his part-time job at a convenience store today and wants to take it easy for the day. But he has to go to a coin laundry, and wonders whether it's open on Saturday.

\*exhausted = 疲れ切った

日本語の第2文「毎日のできごとはテレビを見ればいい」の「~ればいい」が、課題文では、can で表現されている。また、日本語文の「土曜日はやっているだろうか」の助動詞「だろうか」のニュアンスは、課題文では動詞の wonder で言い表されている。

日本語文での接続詞は「でも」一つであるが、英語文では but と and の二つになっている。最後の2文が英語では and でつながれ、1文となっているからである。

日本語ではトシオが1回であるが、英語では Toshio が1回、he が4回で、5文すべてに動作主が明示されている。

この課題文の流れを見てみると、第1文でトシオが新聞を読まないことにしたことが告げられる。「では、ニュースはどうするのだろうか？」という疑問を受ける形で、「最近の出来事」が取り立てられ、第2文の題目語となる。新聞を読まなくなったことの原因として第3文の事実「とても疲れている」があるのだが、どれか特定の言語要素を取り立てることはしにくい。既出の文との連関を示すなら、「つかれきった体のためにできるだけ休養をとりたいのだ」のように、文全体の末尾に「ノダ」をおくことが考えられる。第4文はアルバイトの話で、第3文までとは直接関連がない。毎日アルバイトをしていて、それもあって疲れているのだ、という前提があることを示すためには「今日」を取り立てて、「今日は」とすることが有効である。「アルバイトに行かなくていい」という内容を受けて、「コインランドリーには」となり、ところで、今日は土曜日だが、その「土曜日は」あいているだろうかと文章が流れていく。

#### 4. 調査方法

調査票は二種類用意し、日文、英文それぞれの学生の半分に MIKIKO、半分に TOSHIO を訳してもらった。

調査は、2005年10月に、各学科の必修科目の授業時間中におこなった。所要時間は15分ほどである。調査に協力してくれた学生は、日文 MIKIKO が20名、TOSHIO が20名、英文 MIKIKO が22名、TOSHIO が19名であった。

各学科の課題文一文ごとにスプレッドシートを1枚用意し、その和訳文を一覧にしてデータベースとした。

#### 5. 調査結果：個人

以下に、本学学生の書いた和訳例をあげ、分析を加える。

## MIKIKO-1 日文

みきこは一人で住んでいた為、家事をするのに適していなかった。  
 彼女は、自分の食事をコンビニエンスストアで買った。今朝、彼女は  
 彼女の母から電話でこう言われた。「明日、あなたを見に行きます」  
 みきこは自分の部屋をそうじする必要があった。彼女は、ゲーム  
 センターに行く時間が欲しいと思った。彼女にとってそこは、  
 夢の世界の一つだった。

この和訳文は、馬場2006で直訳調だとして取り上げた学生 (UNIVERSITY-2) が平成17年度に書いたもので、学生の所属は日本語日本文学科である。

英語文の第1文で、and を訳出しようとし、「住んでいた為」としている。英語の and を日本語の順接の接続詞にあてはめようとしたのだろう。が、and は名詞や形容詞、動詞といった単語、あるいは、句、文をつなぐだけで、独自の意味を持たないことがある。この第1文がまさにそれで、論理的に考えればわかるように、一人暮らしであることと家事が苦手なこととは因果関係で結ぶべきものではなく、ただ二つの事柄をつなげただけである。「一人で住んでいた為」という意味であるなら、Mikiko lives alone, and so she is not good at doing housework.、などのように、原因、理由や因果関係を示す語が入っているはずである。

この学生は、英語文に見られる人称代名詞をすべて日本語に訳出している。主格の she は「彼女は」、前置詞とその目的格の for her は「彼女にとって」、そして、所有格の her は「自分の」としている。そのため、第2文は「彼女は、自分の食事をコンビニエンスストアで買った」としている。自明のことは繰り返さない、言語化しないという原則にのっとると、「食事をコンビニエンスストアで買う」となるはずである。さらに、日本語の文はいくつか連なって文章を構成する時、その文章の流れを示すため、あるいは、文同士の有機的な関係を明示するため、題目語を置く、題目語を明らかにする必要がある。ここでは、「食事は」とすべきである。

第3文、She doesn't clean the house.、がとばされている。うっかりしたのだろう。

「彼女は彼女の母からこう言われた」「あなたを見に行きます」もいかにもぎこちなく、直訳調である。自明の人称代名詞をはぶくと、「今朝、母から電話で「明日、行くわよ」と言われた」となる。To see の対象が「あな

た」であることは自明で、「あなた」を言語化しないと、必然的に to see の訳も要らなくなる。

第5文は「みきこは自分の部屋をそうじする必要があった」と訳しているが、自明の部分言語化しないとすると、「みきこは」も「自分の」もいらぬ。前文の「明日母親が来る」という文脈を受けると、today が取り立てられ、「今日は、部屋を掃除しなくてはならない」となる。

中学、高校の英語教育では逐語訳が求められるのだろうか。英語の文章をよく理解していることを示すために、そこにある語句はすべて日本語に訳し移さなくては行けないという規則があるのかもしれない。そして、MIKIKO-1ではそれがほぼ実現している。ここから先は、英語力より日本語力の問題である。ここまで読み取った内容を自然な日本語にするにはどうしたらいいか、考える力を養成しなくては行けない。

## MIKIKO-2 日文

ミキコは一人暮らしをしていますが、家事は得意ではありません。  
 彼女は食事をコンビニで買った物ですませています。家の掃除もしません。  
 今朝、お母さんから「明日会いに行くから」という電話がかかってきました。だから  
 ミキコは今日部屋の掃除をしなければなりません。  
 彼女は、自分にとっては夢のような世界ともいえるゲーセンに行く時間をなくしてしまったのです。

この和訳文も日文科の学生によるものである。MIKIKO-1とは大きく異なり、日本語に訳された文章には文章の流れ、物語性が感じられる。

まず、第1文、文をつなげているだけで固有の意味の希薄な and を、逆接を表す接続助詞の「が」にしている。「一人暮らしをしているから家事ができてもいいはずなのに、それなのに得意ではない」という因果関係を、and からは離れて自分で考えたのだろう。同様に、第4文「母親が来る」と第5文「部屋の掃除をする」との間にも因果関係を認め、「だから」という接続詞を補っている。She を日本語に訳出することも少なく、一方で、「食事をコンビニで買った物ですませています」、第3文では「家の掃除もしません」などのように、文章全体の意味と文の流れを意識して、「すませる」「も」などを加えている。「明日会いに行くから」の「から」、she got a call に対する「電話がかかってきた」、第6文の末尾のモダリテュー的な表現「なくしてしまったのです」などにも日本語らしさが感じられる。

## MIKIKO-3 英文

ミキコは1人暮らしをしているが、家事は得意ではない。食事はコンビニで買って来て、部屋もそうじしない。今朝母親から「明日会いに行くから」という電話が来た。彼女は今日部屋をきれいにしてはならない、つまり今日は彼女にとっての夢の世界であるゲーセンには行っていないという事だ。

この和訳文は馬場2006の WORK-2を書いた学生のものである。

She, her といった人称代名詞を逐一すべて訳すといったこともなく、コンパクトにまとめている。書かれている事柄を日本語に移し変えるため、いくつかの工夫が見られる。たとえば、第4文の日本語訳の「明日会いに行くから」の「から」がそうである。日本語話者の母から娘への発話として、この「から」はごく自然であるが、英文にこれに相当する言語要素は見られない。また、第5文と第6文の間に強い因果関係を認め、前者を受ける形で後者を「つまり \_\_\_\_\_ ということだ」という枠組みの中にいれている。

## MIKIKO-4 英文

ミキコは、1人暮らしで家事が得意ではない。コンビニでご飯を買って、部屋もそうじしない。しかし今朝、母親から明日会いに来るという電話があった。部屋を今日中に片づけないといけない。ミキコにとって一種の夢の世界であるゲーセンを訪れる時間は、どうやらなさそうだ。

この学生は、「彼女」という語を一切使っていない。第6文の for her を訳さないと、ゲーセンが夢の世界なのは一般論なのかミキコにとってなのかがわからなくなる。そこで、この学生は「ミキコにとって」と訳している。この for her の her を「ミキコ」と訳し、それ以外の人称代名詞は日本語に訳出していない。それでも、意味の理解には支障をきたさない。

文と文との関係を言語化するため、「部屋もそうじしない」として、家事が得意でない事例が複数あることを示している。さらに、第6文の won't の持つニュアンスを、「どうやらなさそうだ」のように陳述の副詞と様態の助動詞とで訳出している。



## TOSHIO-1 日文

トシオは今日から新聞を読まないことに決めた。彼はテレビで最近の催事について知ることが出来るからだ。彼は疲れた体をできる限り休めたかった。今日はコンビニのバイトに行く必要がなかったので、今日この日を休らかに過ごしたかった。しかし、コインランドリーに行かなくてはならない、そして、コインランドリーは土曜日に閉店する。

この学生は馬場2006にある WORK-1を書いた学生で、日文所属である。

課題文には he、his という人称代名詞が全部で六つある。が、TOSHIO-4を見ればわかるように、これらを訳出しなくても、文章は成り立つ。TOSHIO-1では六つのうち二つを日本語に訳しており、英語文に引っ張られて訳出した可能性は否めない。

課題文の第1文と第2文との間には因果関係を示す言語要素はない。が、「今日から新聞を読まない」ことと「ニュースでできごとが見られる」こととの間に因果関係を認め、第2文の訳を「催事について知ることができるからだ」としている。また、英語文では第1文が decided で過去形であるだけで、残りの述部はすべて現在形である。が、これを第三、四文では「休めたかった」、「必要がなかった」、「過ごしたかった」とタ形にしている。和訳の文章でこれらをタ形にしても、文章全体の意味は正確に伝わる。時制に関しては、英語文に引っ張られることなく、書かれている内容を自分なりに日本語に移し変えていると言える。

## TOSHIO-2 日文

敏夫は今日から新聞を読まないことにした。  
テレビでだいたいのニュースは見れるからだ。  
彼は自分の疲れ切った身体にできるだけ多くの休養を導いたかった。  
今日はコンビニのバイトに行かなくてもいいので、一日中ゆっくりしたかった。  
だがコインランドリーに行かなくてはならない。しかも日曜に閉まっているかどうか...

人称代名詞の「彼」が一つしかない、第2文の訳文を「見れるからだ」として第1文との因果関係を言語化している、第4文の and を文脈から原因理由の接続助詞「ので」に訳しているなど、英語の直訳にとどまらない翻訳がなされている。Decided という語を「決めた、決心した」と訳すことなく、より日常的で使用頻度の高い「～ことにした」としているのも、こなれた印

象を与える。第5文 and wonders whether it's open on Saturday の訳が「しかも日曜に開いているかどうか…」は、「日曜」であるのは明らかに間違いだが、「しかも」を使っている点、wonders の訳を省略している点など、文章全体から見ると適切だと言える。

### TOSHIO-3 英文

トシオは今日から新聞をとりよしいことにした。  
 彼はテレビで現在の出来事を見たいのだ。  
 彼はできるだけ彼の疲れた体を休ませたいと思っている。  
 彼は今日コンビニのバイトも行かなくていい、その日はゆっくりしたいのだ。  
 でも彼はコインランドリーに行き、その日土曜日も開いているのかを確かめなければいけない。

「コンビニのバイトも行かなくていい」という箇所からは、この学生が「トシオは何もしなくていい」という解釈をしていることがわかる。ここに副助詞「も」を入れたのは、英語からの逐語訳ではない。Decided は「～ことにした」と訳し、第2文は「見れるのだ」とノダ文にしている。が、訳全体を見ると、he は「彼は」、his は「彼の」とすべての人称代名詞を逐一日本語に置き換えており、機械的な翻訳の感がある。

### TOSHIO-4 英文

トシオは今日から新聞を読まないと決めた。  
 現在起きていよう出来事はテレビで見たいので、疲れた体のために  
 できるだけ長い休養が欲しいのだ。今日は、アルバイトのためにコンビニ  
 に行く必要がなかったのだ、楽に過ごしたがついて、コインランドリーに  
 行かなければならなかったが、土曜日に開いているのか不思議に  
 思った。

馬場2006の WORK-3を書いた学生で、2004年の調査では、I、my、he、him をすべて訳出している。それが、TOSHIO-4では、まったく訳出していない。「できる限り長い休養が欲しい」「アルバイトのためにコンビニに行く必要がなかった」「楽に過ごしたがっている」「土曜日に開いているのか不思議に思った」など、日本語としてはぎこちない言い方があるものの、人称代名詞の扱いという点から見た場合、大学での1年間で大きく進歩したと言える。

## 6. 調査結果：全体

ここでは、二つの課題文の和訳を、1文ごとに日本語日本文学科の学生の回答と英語英米文学科の学生の回答とを比較しながら見ていく。

### 6-1 MIKIKO

MIKIKO の課題文では、6文すべてに Mikiko なり she なりの主語が言語化されている。日文科の学生はそれをそのまま日本語に訳し、20名中の16名がすべての和訳文に「ミキコは」か「彼女は」をつけている。6文中5文につけているのが3名、3文につけているのが1名である。一方、英文科の学生に、すべての文に「ミキコは」「彼女は」をつけている学生はいない。6文中5文が2名、4文が3名、3文が5名、2文が10名、1文だけが2名である。

#### 第1文：Mikiko lives alone and is not good at doing housework.

“is not good at” を字句どおりに訳すと「得意でない」となるが、より自然な日本語は「苦手だ」であろう。日文の学生は「得意ではない」13名、「苦手だ」2名、その他は、「上手くできない」、「上手ではない」、「家事をするのに適していなかった」、「家事をあまりしていない」各1名である。一方、英文の学生は、「得意ではない」12名、「苦手だ」7名、「上手くない」2名、「下手だ」1名であり、日文の学生の方が英語に引っ張られ、英文の学生の方がより自然な日本語に訳していることが分かる。

“Mikiko lives alone” を日文の学生は13名が、「一人暮らしで、／一人暮らしをしていて」のように、断定の助動詞「で」の連用形、あるいは、動詞のテ形で訳している。「名詞+だ」の連用形も、「動詞のテ形」も、英語の and の訳になるが、「5. 調査結果：個人」の MIKIKO-1で述べたように、前件と後件の間に「一人暮らしだから、家事が苦手だ」のような因果関係が生じてしまう。and の訳としての「デ／テ」はいいのだが、「一人暮らしだから、家事が苦手だ」というのは論理的でない。

一方、6名は「一人暮らしだが」と、逆接の接続助詞を使っている（MIKIKO-2など）。「一人暮らしなのだから少しは家事に慣れていいはずなのに、家事が苦手だ」という解釈なのだろう。and を逆接の接続助詞に訳すというのは勇気があるかもしれないが、前件と後件の関係は論理的となる。‘and’=「ソシテ」、と訳を当てはめると、「ガ」と訳す発想にはつながらないが、英語の and の本来の機能は、語や句、文をつなぐことであっ

て、前件と後件との関係に関しては日本語の「デ／テ」より自由度が高いようである。

英文科の学生は、日文科とは反対に、「しているが／しているのだが」の方が多く15名、「一人暮らしで／一人暮らしを／して／いて」が4名である。英文科の学生の方が、英語の字面から機械的に訳していくのではなく、文章の意味内容を考えているからである。英文科の学生のうちの1名は、二つの文が重なった形の文構造を「一人暮らしをしているミキコは家事が下手である」のように連体修飾句を含んだ複文にしている。訳すにあたって文の構造を変えているのである。

## 第2文：She buys her meals at a convenience store.

日文の学生は英語文の構造どおり、20名中19名が「彼女」を文頭に上げ題目語化して「彼女は」と訳している。このうち、18名は「ごはん」「食事」をヲ格とし、「ごはんを」「食事を」と訳している。「彼女は食事をコンビニで買います」は、文法的に正しいが、直訳、翻訳調が強い。

第1文で Mikiko が出てきているので、この文が Mikiko に関してであることは自明である。日本語では、わかっている主語、直前に出ている主語は言語化しないのが普通である。そして、日本語は題目を好み、この場合、第1文の housework を受け、「家事」の具体例である「食事」が題目語化される。他のものでなく、第1文との関係で、「食事」が題目語化されるのである。「食事」を題目語化した「食事はコンビニで買います」の方が、より日本語らしい。が、「食事は」とした学生は1名のみであった。

文章全体を見ると、第1文で「家事が苦手だ」、そのあと「料理」「掃除」と続く。家事が苦手なことの具体例として料理と掃除があがっており、日本語ではこれらを題目語化すると文の流れが安定する。

英文科の学生の回答では、「彼女」を題目語化するものは8名と少なく、「食事は (MIKIKO-3など) /ごはんは」が11名と多くなっている。そして、題目を置かない学生が1名 (MIKIKO-4：コンビニでご飯を買い、部屋もそうじしない) であった。残りの2名は「ミキコ」を題目としているが、これは次のように、第1文と第2文を組み合わせているからであって、この場合の「ミキコは」は buys her meals の主語を日本語に訳出したものではない：みきこは1人暮らしを／して／いて、家事は得意ではなく、コンビニでご飯を買っています／ミキコは一人暮らしを／して／いるが、家事は苦手で、食事はコンビニで買ってすませている。2/3近くの学生が「彼女は」を回避している。

「彼女はコンビニで食事を買っていたし、部屋のそうじもしなかった」「食事はコンビニで買うし、家の掃除はしません」「彼女はコンビニで食事を買っているし、家の掃除もしない」など、家事の具体例である料理と掃除を列挙し、「～し、～」でつないだ回答は日文にも英文に見られ、前者が2名、後者が3名であった。

文章全体の意図を反映させる工夫として、「彼女は食事をコンビニで買ったのですませています」(MIKIKO-2)が日文に1名、同じように動詞「スマス」を使っている例が、英文では、「彼女は食事をコンビニですます」「食事はコンビニですませ、家のそうじもしない」など4名いる。

### 第3文：She doesn't clean the house.

日文の回答の題目語は、「彼女は」15名、「家の掃除も」2名(MIKIKO-2など)、「家も」「部屋の掃除は」各1名で、題目語がない回答「部屋のそうじをしない」が1名である。一方、英文の回答では、「彼女は」6名、「部屋も」3名(MIKIKO-3、4など)、「家の掃除は」3名、「家の掃除も」2名、「家も」2名、「部屋の掃除も」2名、「そうじも」1名、「家の中をキレイにしてはいません」1名で、「彼女は」6名のうち、3名は、他の文と組み合わせている：彼女はコンビニで食事を買っているし、家の掃除もしない／彼女は自分の食事をコンビニで買ってしまおうし、そうじもしない、など)。日文の学生は20人中15人が「彼女は」、一方、英文は22人中6人で、英文科の学生の方が題目語化に関し、固定観念がないことがわかる。

### 第4文：This morning, she got a call from her mother who said, "I'll come and see you tomorrow."

日文では12名が、「彼女は」を題目としている。1名は「今朝は」を題目としていて、残りは動作主である「彼女」を言語化していないか、「今朝、母親から電話があり、「明日会いに行く」と言われた」のように、「電話」を主語としている(MIKIKO-2など)かである。

英文で「彼女は」を題目としているのは5名と少なく、うち1名は、「彼女はそうじもしないが、今朝お母さんから電話があり、明日彼女に会いにくると言っていたので、今日部屋をそうじしなければならなくなった」のように、三つの文を関連付けて一文にし、その全体の題目として「彼女は」をおいている。残り17名の回答には、題目語は見られない(MIKIKO-3、4など)。

母親が娘にかける日常的な電話で、「あした行く」という発話は考えにく

い。発話末に何かしらの言語要素がつくであろう。「わ」(今朝、彼女は母親からの電話をもらい、こう言われた。「明日、あなたの所へ行くわ」)、「ね」(今朝、彼女は「明日会いに来るからね。」という母親からの電話を受けた)、「わよ」(今朝、母親から電話がかかってきた。「明日会いに行くわよ。」)などがあった。これら終助詞は、もととなる英語の文章には対応する言語要素がない。同様に、上の「ね」の回答例にある文末の「から」も英語の文章には対応する要素がない。が、日文では、「私は明日あなたに会いに行きますからね」、「明日会いに行くから」(MIKIKO-3)、「明日あなたに会いに行くからね」の3名が、また、英文では、「明日会いに行くから」、「明日見に行くからね」、「明日、会いに行くからね」など、計11名が「から」をいれている。

#### 第5文：Mikiko has to clean her room today.

日文では、「ミキコは」が19名(MIKIKO-1、2など)、「今日は」が1名、一方、英文では、「ミキコは」が15名、「今日は」が2名、「彼女は」が3名(MIKIKO-3など)、題目なしが2名(MIKIKO-4など)である。「ミキコ」と書かなくても、部屋を掃除しなくてはならないのは「ミキコ」だとわかるので、ここで言語化する必要はない。日本の学生はもちろん、英文の学生も“Mikiko”を日本語に訳出しているのは、文の主語がで“she”でなく“Mikiko”となっていたからではないだろうか。第5文に clean の主語は訳出される必要はなく、そして、あした母親がやってくる、のであるから、題目は「今日は」となるはずである。

「ミキコは」があったのでは、「今日」は題目語化されにくい。文章の流れからいくと、「今日は」となるのだが、両学科の学生ともに課題文の英語に引っ張られ、「ミキコ」を言語化しないという発想に行き着かなかったのである。

#### 第6文：She won't have time to visit an arcade, which is a kind of dream world for her.

第5文は「掃除をしなくてはいけない」、第6文は「ゲーセンに行く時間がない」であり、二つの状況の間には因果関係がある。が、英語では言語化されていない。日本の学生は誰もこの関係を日本語にしていなかったが、英文の学生には、英文にない接続詞を補っているものがある。

**ダカラ** 5名：だから彼女にとって一種の夢の世界であるゲームセンター

に行く時間はないだろう／だから、彼女にとっては一種の夢の世界であるゲーセンも今日はおあづけである／だから今日は彼女にとって夢の時間を過ごすことのできるゲーセンへ行くことができない／だから、彼女にとって夢の世界であるゲーセンに行っている暇はない／だから彼女にとって夢の世界のようなゲーセンに行く時間がなくなってしまった。

**ソノタメ** 2名：そのためバーゲンに行く時間はないでしょう／バーゲンはミキコにとってある種夢の世界なのですが…／そのため、彼女にとって夢の世界のようなゲーセンに行く時間がないだろう

**ツマリ** 1名 (MIKIKO-3)：つまり、今日は彼女にとっての夢の世界であるゲーセンには行っている暇などないということだ

She won't の she であるが、日文の学生は20名中18名が「彼女は」と訳している。一方、英文科の学生は「彼女は」が1名、「彼女には」が1名（彼女にとって、ある種の夢の世界であるゲームセンターに行く時間は、彼女にはないだろう）で、22名中の20名が訳出していない。これは、この文の関係代名詞節の中にある for her は訳出しないわけにはいかず、その上文全体の主語の she まで訳すと、「彼女」が一つの文に二度も現れることになるからであろう。

その her の訳は、日文では、「彼女にとって」11名 (MIKIKO-1など)、「彼女にとっては」1名、「彼女の」1名（彼女の現実逃避の一種であるゲームセンターに行く暇はなかった）、「自分にとっては」1名 (MIKIKO-2) であり、英文では、「彼女にとって」19名 (MIKIKO-3など)、「ミキコにとって」2名 (MIKIKO-4など)、「彼女の」1名（彼女の大好きなゲーセンに行く時間もなくなってしまった）である。

第6文は非制限的な関係代名詞を含んでいて、直訳すると、「彼女はゲーセン、そこは彼女にとって夢の世界であるが、に行く暇はないだろう」のようになる。英文の学生の中には、文の構造をすっかり変え、連体修飾ではなく、接続助詞を使って「彼女にとってゲーセンは夢の国のような所なのにそこに行く時間ありません」と訳した学生がいる。

## 6-2 TOSHIO

TOSHIO の課題文でも、5文のすべての主語が言語化されている。日文で5文の主語をすべて日本語に訳出した学生は11名、4文が4名、3文が3

名、2文が2名である。英文では、5文が3名、4文が5名、3文が4名、2文が2名、1文が2名である。英文の学生が、不要な主語の繰り返しを避けていることがわかる。

### 第1文：Toshio decided not to read a newspaper from today.

decide の日本語訳は「決める」である。日文の学生は、「ことに決めた」8名、「と決めた」5名、「ことを決めた」2名、「ことに決めていた」1名、「と決心した」1名、これに対し、「ことにした」が4名（TOSHIO-2など）である。英文科の学生は、「ことに決めた」6名、「と決めた」2名、「ことを決めた」3名で、「ことにした」が8名（TOSHIO-3など）である。英文科の学生の方が、辞書的逐語訳、直訳にしばられていないことがわかる。

### 第2文：He can watch current events on TV.

日文では、「彼は」を題目としているのが16名、events を題目としている（大きな出来事は／めずらしい出来事は／大事な出来事は／ニュースは）のが4名、一方、英文では、「彼は」が7名、events は10名（最近のニュースは／現在起きている出来事は（TOSHIO-4）／日々の出来事は、等）である。「新聞は読まない」、ではどうやって世の中のことを知るのだろう、「出来事は」という流れが自然であり、「彼は」と始めるのは直訳調である。

第2文、第3文を、第1文「新聞を読まない」ことの原因としてとらえ、「彼はテレビでさまざまなイベントを見ることができるし、彼は少しでもいいから出来るだけ疲れ切った体を回復させたいからだ」（日文）、「今起きている事はテレビでもみれるし、疲れるようなことは最小限におさえたかった」（英文）のように、理由を列挙するときに使う「し」で二つの文をつなぐ工夫をしている学生がいる。さらに、「新聞を読まない」ことの原因であることを言語要素で明示している回答もある。日文では、文末の「からだ」4名（TOSHIO-1、2など）、文末の「のだ」2名、それぞれ「テレビでほしいのニュースは見れるからだ」「彼はテレビでさまざまなイベントを見ることができるし、彼は少しでもいいから出来るだけ疲れ切った体を回復させたいからだ」、「彼はテレビのイベントを見られるようになったのだ」などである。英文では、文末の「からだ」3名、「のだ」1名（TOSHIO-3）、「ので」1名（TOSHIO-4）、「のである」1名で、それぞれ、「テレビで最近の出来事を見ることができるからだ」、「彼はテレビで現在の出来事を見れるのだ」、「現在起きている出来事はテレビで見られるので」、「彼は、テレビで現



在の出来事を見ることにしたのである」などである。

**第3文：** He wants to get as much rest as possible for his exhausted body.

日文の学生は、20名全員が「彼は」で始めているが、英文の学生は、16名が「彼は」、「疲れるようなことは」、「としおは」が各1名、題目なし（少しでも体の疲れをいやしたい）が1名である。

理由の記述を示す文末の「のだ」を日文では2名（彼はできるかぎり疲れ切った体を休めたいのだ）、英文では7名（疲れ切った身体のためにできるだけ多く休みたいのだ／彼は疲れきった体のためにできる限りの休息をとりたいたのだ、および、TOSHIO-4など）。英文では、「のです」（疲れ切った体を出来る限り休ませたいと思っているのです）、「のである」（彼は疲れ切った体の為に出来るだけ休みたいのである）もそれぞれ1名が使っている。

**第4文：** He doesn't have to go to his part-time job at a convenience store today and wants to take it easy for the day.

日文、英文の学生の回答に現れる題目は、日文では、「彼は」14名（うち2名は「彼は今日は」）、「今日は」5名（TOSHIO-1、2など）、「コンビニのバイトは」1名であり、英文では、「彼は」6名（うち1名は「彼は今日は」）、「今日は」11名（TOSHIO-4など）、題目なしが1名、「コンビニのバイトには」が1名である。「彼は」を文頭に持ってくるのではなく、「今日」を題目として文頭に持ってくる方が日本語として落ち着きがいいであろう。

**第5文：** But he has to go to a coin laundry, and wonders whether it's open on Saturday.

「彼は」を題目にしている学生が日文では14名、英文では10名、言語要素としての題目がない学生は日文（TOSHIO-1、2など）でも英文（TOSHIO-4など）でも6名である。「彼は」以外の語を題目としている学生は、日文にはおらず、英文では「今日は」が1名、「コインランドリーには」が1名、「トシオは」が1名である。英文は、半数近くの学生が「彼は」を題目としていない。

## 7. 考察

### 7-1 人称代名詞の出現率

課題文 MIKIKO に she が4回、her も4回現れる。回答した日文の学生は

20名である。ということは、回答者全員がすべての she と her を「彼女」に訳したら、「彼女」は160回現れるはずである。が、実際に現れたのは、81であった。出現率を81/160、51%とした。英文の学生は22名、出現回数は49回だったので、出現率は28%であった。

TOSHIO には he が4回、his が2回現れる。回答した日文の学生は20名、「彼」の出現回数は64回、出現率は53%である。英文の学生は19名、出現回数は39回、よって、出現率は34%である。

馬場2006で分析した課題文 WORK には、I が6回、my、he、him、you がそれぞれ1回現れる。ここでは、I と my のみを集計した。UNIVERSITY には I が7回、my と we がそれぞれ1回現れる。すべてを集計した。これらの調査での人称代名詞の出現率を一覧にしたのが下の表である。

	2004年調査		2005年調査	
	WORK	UNIVERSITY	MIKIKO	TOSHIO
日文	59%	42%	68%	54%
英文	33%	50%	49%	33%

表 人称代名詞の出現率

2004年の調査の時には、両学科の差はあまりなかった。受験時にすでに英語力の違いはあっただろうが、受験英語、あるいは、逐語訳、直訳という点では差がなかったのだろう。

日文科の学生の訳した文章における人称代名詞の出現率は1年たってもあまり変わらない。一方、英文科の学生の訳した文章における出現率はかなりさがっている。‘He’ とあれば「彼は」、‘she’ とあれば「彼女は」と機械的に置き換えることをせず、英語の語順や文の構造に引きずられることなく、その意味を言い表すにはどのような日本語が適しているかを考えるようになったためである。

「5. 調査結果：個人」を見てみると、MIKIKO-1と TOSHIO-3では人称代名詞をすべて訳出しているが、MIKIKO-4では「彼女」が一つもないし、TOSHIO-4では人称代名詞はまったく訳出されていない。「彼」「彼女」という語は日常会話でも使われるようになってきているが、それでも、これらの語があるだけで、翻訳調の感を否めない。MIKIKO-4、TOSHIO-4の方がよ

りこなれた日本語に感じられるのはそのためだろう。

### 7-2 「ハ」をめぐって

英語の語順、文の構造に引きずられ、文の主語にたつ he、she などの人称代名詞をすべて日本語に訳出してしまうと、文章全体が「彼は、——。彼は、——。彼は、——。」と単調になり、翻訳調になる。では、文頭に来るべきものは何かというと、題目語である。題目語は、特定の言語要素に「ハ」を後置することによって示され、文章全体の流れと各文の前文との連関を示す。「彼は」あるいは「彼女は」が文頭に来てしまうと、文同士の有機的な関係を明示するはずの題目語が来にくくなってしまい、そうすると、文章全体がぶつ切れの文が並んだだけのものになってしまう。

### 7-3 文と文とを関連付けるもの

回答には、英語の課題文にはない言語要素を加えることによって、文と文との関連や文章の流れを示す工夫をしたものがあつた。たとえば、MIKIKO-2にある第4文と第5文をつなぐ接続詞「だから」、ミキコの母親の発話「明日会いに行くから」の文末の「から」である。また、「料理をしない」、「掃除をしない」ことを「ミキコは家事が苦手だ」ということとの具体例ととらえ、二つを例の列挙を示す接続助詞「し」で結んだり、「掃除もしない」とする。同じ「し」の使用は、「テレビで見られる」と「休みたい」ということとを、Toshioが「新聞を読まない」こととの理由と解釈した訳文にあつた。そして、これらが原因理由であることは文末の「からだ」や「のだ」で表されている。MIKIKO-3では、「掃除をしなくてはならない」ということと「ゲーセンには行けない」ということとの間に因果関係を認め、「つまり      ということだ」という表現を使っている。

「ゲーセンに行く時間」に関して、MIKIKO-2の「なくしてしまつた」、MIKIKO-4の「どうやらなさそうだ」という表現は、文と文との論理的なつながりを示しているわけではなく、感情、感覚面での有機的なつながりを示していると言えよう。

## 8. まとめ

「りんごはもう召し上がりましたか?」を英訳すると、“Have you had the apple?” だろうか。この英語を直訳すると、「あなたはもうりんごを食べましたか?」となる。日本語としてまったく問題がないが、でもこんな日本語

は言わない。りんごを食べたかどうかが焦点である時に、目の前にいる人間に対して、「あなたは」とは言わない。

馬場2006の「14. おわりに」に、「大学受験の影響もあるのだろう。入学試験では、英文の意味内容が理解できているかどうかだけでなく、英文和訳によって英語力自体、英語の文法に対する知識が身についているかどうかをみようとする。そこで、漢文訓読のようなこと、英語の構造、体系を引きずったまま日本語になおす、ようなことが起きてしまうのである。」とある。しかし、英語英米文学科の学生に限って言うと、1年間の大学教育によって、英語の呪縛からはかなり解放されたようである。英語で書かれた文章の語を一つ一つ日本語に置き換え、そこから意味を推し量って日本語文を作る、というのではなく、文章の英語それ自体を読み解き、理解し、その内容を日本語で表現する、そういった作業をしているように思われる。

課題文には意味の一対一対応する言語要素がない場合にも、日本語の訳文には補っている。それは、表現すべきこと、したいことの何を言語形式化するかが両言語で異なっているからであり、また、一方の言語では言語形式によって表現できることが、他の言語には相当する形式がなく、それを別の品詞や別の機能の形式で表現しようとするからである。

英語英米文学科の学生は毎日英語を鍛えられている。英語の文章の語を一つ一つ日本語に置き換えても日本語にはならない、どちらの言語であっても表現者の意図は過不足なく言い表すことができる、が、言語には言語の構造と体系があり、そこに存在する言い表したいことをどのような形式で表現するかは、それぞれの言語の構造と体系によるのだ、ということをも身にしみて学んだに違いない。その結果として、述部の主語は繰り返さない、文と文との関係を示すため、文章の流れを明示するために題目語「ハ」を使う、などのことが実践できているのだ。

## 9. 今後の課題

馬場2006では2004年度の調査データを、ここでは2005年度の調査データを、それも、英文和訳の部分のみを分析した。今後は、和文英訳の回答の分析、そして、英文和訳の回答の分析結果と和文英訳のものとの対照、付き合わせを行ない、1年間の大学教育を経た変化、日本語日本文学科の学生と英語英米文学科の学生との違い、さらに、日本語力と英語力との関係、両言語の構造の違いなどを考察していきたい。